

山脇学園中学校

2024年度 入学試験問題

国語 C

注意事項

1. 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
2. 試験時間は50分間です。
3. 問題は□～四までです。
4. 解答はすべて解答用紙に書きなさい。
5. 解答用紙に受験番号、氏名を書きなさい。
6. 字数指定のある問いは、句読点・記号も一字として数えます。

① 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

「正しきは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といった言葉や、「現代社会では価値観が多様化している」「価値観が違う人とは結局のところわかりあえない」といった言葉が注1流布しています。このような、「人や文化によって価値観が異なり、それぞれの価値観には優劣がつけられない」という考え方を相対主義といいます。「正しきは人それぞれ」ならまだしも、「絶対正しいことなんてない」とか、「何が正しいかなんて誰にも決められない」といったことさえ主張する人もけっこういます。(中略)

たしかに、価値観の異なる人と接触することがなかったり、異なっても両立できるような価値観の場合には、「正しきは人それぞれ」と言っているても大きな問題は生じません。たとえば、訪ねることも難しい国の人たちがどのような価値観によって生活していても、自分には関係がありません。またたとえば、野球が好きでサッカーが好きでサッカーが好きな人は、スポーツのネタでは話が合わないかもしれませんが、好きなスポーツの話さえしなければ仲良くできるでしょう。サッカーが好きなのは間違っていない、すべての人は野球が好きでなければならぬ、なんていうことはありません。

① こうした場面では、「人それぞれ」「みんなちがってみんないい」でよいでしょう。しかし、世の中には、両立しない意見の中から、どうにかして一つに決めなければならない場合があります。たとえば、「日本の経済発展のためには原子力発電所が必要だ」という意見と、「事故が起こった場合の被害が大きすぎるので、原子力発電所は廃止すべきだ」という意見とは、両立しません。どちらの意見にももつともな点があるかもしれませんが、日本全体の方針を決めるときには、どちらか一つを選ばなければならぬ

りません。原子力発電所を維持するのであれば、廃止した場合のメリットは捨てる必要があります。② 逆もまた注2しかり。「みんなちがってみんないい」というわけにはいかないのです。

そんなときには、どうすればよいでしょうか。「価値観が違う人とはわかりあえない」のであれば、どうすればよいのでしょうか。

そうした場合、現実の世界では権力を持つ人の考えが通ってしまいます。本来、政治とは、意見や利害が対立したときに妥協点や合意点を見つけてするためのはたらきなのですが、最近では、日本でもアメリカでもその他の国々でも、権力者が力任せに自分の考えを実行に移すことが増えていきます。批判に対してきちんと正面から答えず、単に自分の考えを何度も繰り返したり、論点をずらしてはぐらかしたり、権力を振りかざして脅したりします。

そうした態度を批判するつもりで「正しきは人それぞれだ」とか「みんなちがってみんないい」などと主張したら、権力者は A でしよう。なぜなら、もしもさまざまな意見が「みんなちがってみんないい」のであれば、つまりさまざまな意見の正しさに差がないとするなら、選択は力任せに行うしかありません。「絶対正しいことなんてない」とか「何が正しいかなんて誰にも決められない」というのであればなおさらです。決定は正しきにもとづいてではなく、人それぞれの主観的な信念にもとづいて行うしかない。それに納得できない人とは話し合っても無駄だから権力で強制するしかない。こういうことになってしまいます。

つまり、「正しきは人それぞれ」や「みんなちがってみんないい」といった主張は、多様性を尊重するどころか、異なる見解を、権力者の主観によって力任せに切り捨てることを正当化することにつながってしまうのです。これでは結局、③ 「力こそが正義」という、困った世の中になって

しまします。それは、権力など持たない大多数の人々（おそらく、^{注3}この本を読んでくれているみなさんの大部分）の意見が無視される社会です。

では、どうしたらよいのでしょうか。

④よくある答えは、「科学的に判断するべきだ」ということです。科学は、「客観的に正しい答え」を教えてくれると多くの人は考えています。このように、さまざまな問題について「客観的で正しい答えがある」という考え方を、^{ふん}普遍主義といえます。探偵^{てい}マンガの主人公風に言えば、「真実は一つ！」という考え方だといってもよいかもしれません。先ほどの相対主義と反対の意味の言葉です。「価値観が多様化している」と主張する人たちでも、科学については普遍主義的な考えを持っている人が多いでしょう。「科学は人それぞれ」などという言葉はほとんど聞くことがありません。（中略）

ところが、実は科学は **B** 岩ではないのです。科学者の中にも、さまざまな立場や説を取っている人がいます。そうした多数の科学者が論争する中で、「より正しいような答え」を決めていくのが科学なのです。それゆえ、「科学者であればほぼ全員が賛成している答え」ができれば、時間はかかりません。みなさんが中学や高校で習うニュートン物理学は、いまから三〇〇年以上も昔の一七世紀末に提唱されたものです。アインシュタインの相対性理論や量子力学は「現代物理学」と言われますが、提唱されたのは一〇〇年前（二〇世紀初頭）です。現在の物理学では、相対性理論と量子力学を統一する理論が探求されていますが、それについては合意がなされていません。合意がなされていないからこそ、研究が進められているのです。（中略）

このように考えてくると、科学者であっても、現時点で問題になってい

るような事柄^{がら}について、「客観的で正しい答え」を教えてくれるものではないなさそうです。ではどうしたらよいのでしょうか。自分の頭で考える？ どうやって？

この本では、「正しさ」とは何か、それはどのようにして作られていくものなのかを考えます。そうした考察を踏^ふまえて、多様な他者と理解し合うためにはどうすればよいのかについて考えます。ここであらかじめ結論だけ述べておけば、私は、「正しさは人それぞれ」でも「真実は一つ」でもなく、人間の生物学的特性を前提としながら、人間と世界の関係や人間同士の間の関係の中で、いわば共同作業によって「正しさ」というものが作られていくのだと考えています。それゆえ、多様な他者と理解し合うということは、かれらとともに「正しさ」を作っていくことです。

これは、「正しさは人それぞれ」とか「みんなちがってみんないい」といったお決まりの簡便な一言を吐^はけば済んでしまうような安易な道ではありません。これらの言葉は、言ってみれば相手と関わらないで済ませた最後の^{注4}通牒^{ちよう}です。みなさんが意見を異にする人と話し合った結果、「結局、わかりあえないな」と思ったときに、このように言うでしょう。「まあ、人それぞれだからね」。対話はここで終了^{りよう}です。

ともに「正しさ」を作っていくということは、そこで終了せずに踏みとどまり、とことん相手と付き合うという面倒^{どう}な作業です。相手の言い分を受け入れて自分の考えを変えなければならぬこともあるでしょう。それでプライドが傷つくかもしれません。しかし、傷つくことを嫌^{いや}がってはいけません。新たな「正しさ」を知って成長していくことはできません。

最近、「正しさは人それぞれ」と並んで、「どんなことでも感じ方^{かた}しい」とか「心を傷つけてはいけない」といった感情尊重の風潮も広まっています。しかし、学び成長するとは、今の自分を否定して、今の自分でないも

のなるということ。これはたいへんに苦しい、ときに心の傷つく作業です。あえていえば、成長するためには傷ついてナンボです。若いみなさんには、傷つくことを恐れず^{おそ}に成長の道を進んでほしいと思います(ななどと言うのは説教くさくて気が引けますが)。

(一部内容を省略し、表記を改めました)

【山口裕之『みんな違ってみんないい』のか?】

注1 流布：世間に広く知れ渡^{わた}ること。

注2 しかり：「そうである」の意。

注3 この本：この文章が書かれている本のこと。

注4 通牒：知らせ。通知。

問一 —— 線①「こうした場面」とは、どのような場面ですか。本文中の言葉を用いて、三十五字以内で答えなさい。

問二 —— 線②「逆もまたしかり」の説明として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 原子力発電所を廃止すれば、日本の経済発展をさまたげるおそれがあるということ。

イ 原子力発電所を廃止すれば、被害が引き起こされる危険性が少なくなるということ。

ウ 原子力発電所を維持すれば、事故が起きた場合の被害がじんだなものになるということ。

エ 原子力発電所を維持すれば、日本の経済発展の促進^{そく}を期待することができるということ。

問三 [A]に入る言葉として最も正しいものを、次のア～エから選びなさい。

ア ご立腹 イ 大喜び ウ 大迷惑^{めいわく} エ 得意顔

問四 —— 線③『力こそが正義』という、困った世の中」の説明として、適当でないものを、次のア～エから選びなさい。

ア 権力者の主観による強制が、相対主義によって正当化される社会。
イ 多様な意見の妥協点や合意点が、政治により見出し出されない社会。
ウ 権力を持たない人々が考える「正しさ」が、選択されない社会。

エ 普遍主義の考えのもと一般市民^{ばん}の声が、ないがしろにされる社会。

問五 —— 線④「よくある答えは、『科学的に判断すべきだ』ということですが」とありますが、これに対する筆者の考えをまとめた次の文の [1] [3] に当てはまる言葉を、本文中からそれぞれ指定の字数でぬき出しなさい。

* 現在、問題になっていることについては、科学者たちの [1(二字)] がなされておらず、 [2(十八字)] ような普遍的な答えができるには、議論するための [3(二字)] が必要であるため、科学は「客観的で正しい答え」を教えてくれるとは言えない。

問六 [B]に入る漢字二字を答えなさい。

問七 —— 線『価値観が違う人とはわかりあえない』のであれば、どうすればよいのでしょうか」とありますが、筆者は「価値観が違う人」とわかりあうためには、どのようなことをするべきだと考えていますか。五十字以内で説明しなさい。

問八 本文についての説明として最も適当なものを、次のア～エから選
びなさい。

ア 本文全体を通して「相対主義」と「普遍主義」を対比させながら、
それぞれの問題点を指摘^{てき}している。

イ 自分と同じ考え方を示すために、マンガなどの表現を引用するこ
とで、読者の理解をうながしている。

ウ ひとつの結論に向けて、自分とは異なる考え方を示しそれを否定
しながら本文を展開させている。

エ 複数の問題についてそれぞれの答えを出しながら論を進め、そこ
から導かれる結論を最終的に提示している。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ながとろ高校カヌー部に所属する三年生の鶴見希衣は、高校生活最後の関東大会に出場したが、天才的なカヌーの才能を持つ二年生の湧別恵梨香の不調で、チーム戦で思わしい成績を残せず、落ち込む恵梨香を励ますこともできなかった。以下は、希衣がカヌーの強豪である墨田大学のオープンキャンパスに来た場面である。

今日は晴れているということもあり、川で漕いでいる選手も十人ほどいた。特に、注¹カナディアンの選手が目立つ。

「なあ」

隣に立つ注²神田は後頭部で両腕を組んでいる。その頭はちょうど太陽の位置にあった。

「お前も来いよ、ウチに。上を目指すなら」

「上って？」

「オリンピックに決まってるんだろ」

神田の口端がついと上がる。薄い唇の隙間から鋭い犬歯が覗き見えた。

注³関東大会の結果見たぜ。今の伸びだったらお前だって十分戦える。

代表選手入りは夢じゃない。アタシたちは、オリンピックの枠を奪い合うライバルだよ」

その視線の真っ直ぐさに、希衣は無意識の内に唾を呑んだ。神田は嘘が吐けない人間だ。だからこそ、彼女の言葉には重みがある。

「二人も出るんだね。注⁴代表選手権」

「当然アタシは出る。けど、堀はな……」

顔の半分だけを器用に歪ませ、神田はガシガシと自身の髪を掻き混ぜ

た。

「アイツは多分、上には行けない」

「どうして？」

「あの注⁵インターハイが、アイツのピークだったから」

希衣は神田の顔を見上げた。①眉尻を下げて微笑する神田の表情は、

笑っているようにも今にも泣きそうにも見えた。

「あの時のアイツはさ、アタシと同じ大学に行くことが夢だったから。一

度夢が叶っちゃったら注⁶モチベを維持するのは難しいんだろうさ」

「……そっか」

「ま、だからさ、お前が一緒に部活で湧別は嬉しいと思うぜ」

「何が『だから』なのか分からないんだけど」

神田はフツと口元を緩めると、その大きな手の平で希衣の肩を叩いた。

「お前が諦めないヤツだからだよ」

「なにを？」

「そりゃあ、一緒に戦うことをさ」

そのままサングラスに手を掛け、神田は自身の目元を隠した。黒いレンズに遮られ、彼女の表情の半分が見えなくなる。

長い腕を上げ、神田はブンブンと手を振った。何かかと思いきや、向こうから堀が駆けて来るところだった。彼女が着ているラベンダーカラーのワンピース型のスポーツウェアの裾からは、黒のハーフトイツが覗き見えている。

「うわっ、希衣ちゃんじゃん。なんでここに？」

「オープンキャンパスだってよ」

堀の問いに、神田が答える。長髪にカチューシャという堀の髪型は高校時代と一緒だが、その耳朶には花をモチーフにしたイヤリングがぶら下

がっていた。

「あー、そういえばもうそんな時期なんだね。もしかして希衣ちゃん、可愛い私に憧れて墨田大学に来たくなっちゃった？」

「んなワケないでしょ」

「素直になってもいいのに。ね、神田」

「そりゃあお前、大学生になってから女友達増えたよな。高校の時はアタシしかいなかったのによ」

「そりゃあ、私の可愛さを理解する人間が増えたってことじゃないの？」

「みんなが大人ってことだろ」

「どういう意味よ」

毛先を手で払い、堀がフンと **A** を鳴らす。神田は愉快そうにクツクツと喉奥を鳴らして笑った。

「こんな堀でも皆と上手くやれてるんだ。ウチのカヌー部の人間関係が良いってことは保証するぜ」

「説得力が凄い」

「ちよつと！ どういう意味よ」

頬を膨らませる堀に、②希衣も思わず笑みをこぼす。堀が今を楽しんでいるのであれば、彼女の選択は正解だったのだろうと思った。

カヌー部の艇庫を去り、そのまま大学の正門を抜けて帰路に就く。最寄りの駅に向かう道中は桜並木が続いていた。今は夏のため、その葉は若々しい緑色をしている。

SNSをチェックしても、やはり桜からの返信はなかった。希衣はアプリを開き、電話帳からお目当ての相手を見付ける。通話ボタンを押すと、画面には『湧別恵梨香』の文字が表示された。

コール音が繰り返されること数回、電話は繋がった。

「もしもし？」

聞こえて来た声は僅かにくぐもっている。

「あ、湧別さん？ いきなり電話かけてごめん。今、暇？」

「家でトレーニングしていたんですが、ちょうど先ほど終わったところです。先輩は？」

「私はオープンキャンパスに行ってたの。墨田大学」

「どうでしたか、大学は」

「良い所だったよ、綺麗だったし。あと、神田と堀とか大森姉妹にも会った」

「そうですか」

スマホ越しに、恵梨香がもぞもぞと姿勢を変える音がする。

「寝転んでるの？」

「いえ、ソファアに座っていました。今日も両親は仕事なので、リビングで通話しようかと」

「そうなんだ」

「はい」

「……」

「……」

関東大会以来、こんな風に恵梨香と二人きりで会話するのは初めてかも知れない。希衣は何度も話し掛けていたのだが、向こうに避けられていたから。

③「あの、なんの用事ですか」

電波越しにも、恵梨香が困惑している気配が伝わって来る。いや、困惑だけではない。その声の端々に喜びの感情が滲んでいることも、今の希衣

なら B に取るように理解できる。

「用はないよ。ただ、湧別さんと話したかっただけ」

「何ですか、それ」

「さつき神田と喋ってさ。インターハイが始まる前に、^④私、湧別さんとちちゃんと向き合わなきゃいけないなって思ったの」

「すみません」

「なんで急に謝るの」

「いや、私がご迷惑を掛けたっていう自覚があるので」

最寄り駅の看板が目に入り、希衣はその場で足を止めた。通行人の邪魔にならないように隅へ寄り、電話を続ける。

「関東大会のこと？」

「そうです。今年は女子の部で優勝できるかもって話をしていたのに、私のせいで台無しにしまいましたし。ずっと申し訳なくて」

「それを言うなら、今までは湧別さんのおかげで良い結果を出せてたんだよ。湧別さんのせいなんてことはない」

「ですが、」

「厳しい言い方になるけど、湧別さん一人のせいで大会が台無しになっただと思うなら、それは単なる思い上がり。私は別に、関東大会に対してマインスな感情は持ってない」

「……本当ですか？」

「本当。正直、これが埼玉県大会だったらまた違っただろうけどね」

関東大会は、良くも悪くも独立した大会だ。埼玉県大会と違い、優勝しても次の大会に繋がることはない。

希衣は目を伏せる。瞼の裏側が、眼球を優しく撫でる感覚がする。

「私さ、自分が恵まれてるって自覚がある。高校生活で湧別恵梨香とい

うトップ選手と一緒に漕げていることは、本当に貴重な経験だと思ってる。宝物だよ」

「何ですか、突然」

恵梨香がたじろいだような声を出す。希衣は構わず続けた。

「だけど、いつかは湧別さんと対等に戦える選手になりたい。私も……私も、オリンピックを目指すよ」

スマホを握る手がやけに汗を掻いていた。木にしがみつくと蟬の鳴き声が、じわじわと聴覚を侵食する。スマホからは呼吸音が聞こえる。それが自身のものなのか、恵梨香のものなのか、希衣には判別出来なかった。恵梨香が息を吸う気配がする。その喉が微かに震えた。

「はい」

返事はそれだけだった。だが、それで十分だと思った。

「じゃ、これから電車で長瀬に帰るから。また明日、学校でね」

そのまま通話を切ろうとした希衣だったが、慌てたように恵梨香の切羽詰まった声が滑り込んでくる。

「あの」

「どうしたの？」

「わ、私も、先輩と一緒にいる時間を大事だって感じてます。カヌー部に入って、本当に良かったって」

まるで走り込みの後のように、その息は切れている。勇気を振り絞っての発言であることは明らかで、希衣は自分の頬がじんわりと緩んでいくのが分かった。

「ふふ。なんだかこの感じ、初めて電話した時のことを思い出すね」

「そ、そうですかね」

「……湧別さん、今黒い服着てるでしょ？」

「えっ、なんで分かったんですか」

驚いた声を出す後輩に、希衣は思わず笑い声を上げた。

⑤ 顔を上げると、雲一つない青空だった。

【武田綾乃『君と漕ぐ5』】

注1 カナディアン：競技用カヌーの一つ。

注2 神田：墨田大学一年生の神田優紀。この後に登場する「堀」とは

小学生の頃から神田とペアを組む堀菜々香のこと。希衣・

恵梨香ペアとは昨年のインターハイで戦った。

注3 関東大会の結果：希衣一人で参加したレースでは、日本代表に

選出されている選手に次いで、二位の成績を残した。

注4 代表選手権：日本代表の選手権のこと。

注5 インターハイ：全国高等学校総合体育大会。

注6 モチベ：モチベーションの略。ここではやる気のこと。

注7 桜：他校のカヌー部所属の大森桜。双子の大森楓とペアで大森

姉妹と呼ばれている。

問一 A・B に当てはまる、体の一部を表す漢字をそれぞれ答

えなさい。

問二 線①「眉尻を下げて、泣きそうにも見えたとありますが、

神田はどのようなことに対してこのような表情になっているのです

か。三十字以内で答えなさい。

問三 線②「希衣も思わず笑みをこぼす」とありますが、ここでの

希衣についての説明として最も適当なものを、次のア～エから選

ばなさい。

ア 実力のある神田がカヌー部を紹介しながら、自分を誘ってくれて

いることを誇りに思っている。

イ 希衣が自分にあこがれていると勘違いして喜んでいて堀の様子を

見て、おかしく感じている。

ウ 堀が現在の自分の状況について、悲観しないで過ごしているよう

に感じられ、安心してている。

エ 冗談を言い合える二人の様子を見て、その関係にあこがれの気持

ちを強くしている。

問四 線③「あの、なんの用事ですか」とありますが、このときの

恵梨香について、希衣はどのように感じていますか。最も適当なもの

を、次のア～エから選ばなさい。

ア 電話がかかってきた意図がなかなかつかめず戸惑いつつも、希衣

との会話を嫌がっていない。

イ 先輩からの電話をうれしいと感じながらも、希衣に謝らなければ

ならないと覚悟を決めている。

ウ 話題が見つからず話が途切れて困っているが、希衣との会話を

つまらないとは思っていない。

エ 突然かかってきた電話に驚いているが、希衣に嫌われていなかったの

だと安心してている。

問五 線④「私、湧別さんといけない」とありますが、ここでの

「向き合」とはどのようなようにすることだと考えられますか。五十字

以内で説明しなさい。

問六 本文の※「希衣は目をく喉がかすかに震えた。」の部分の希衣の様子を表す言葉として適当なものを、次のア～オから二つ選びなさい。

ア 焦燥（しょうそう） イ 安心 ウ 緊張（きんぱう） エ 動揺（どうごう） オ 敏感（びんかん）

問七 線⑤「顔を上げると、雲一つない青空だった」とありますが、ここには希衣のどのような気持ちが表れていますか。最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 恵梨香の悩み（なや）を、先輩として解決してあげられた自分を誇らしく思う気持ち。

イ 恵梨香の実力に対する嫉妬（しつと）心が消え去り、仲間として高め合いたいという気持ち。

ウ 互（たが）いの気持ちが通じ合い、抱（かか）えていた気がなくなつた晴れやかな気持ち。

エ 恵梨香にいずれは勝つことのできる選手になりたいという前向きな気持ち。

問八 本文についての説明として適当なものを、次のア～オから二つ選びなさい。

ア 希衣は、神田の表情や言動を通して、神田の堀に対する思いを感じとっている。

イ 堀の装（ま）いや友人関係の変化は、堀が神田と距離（きょり）を取ろうとしていることを表している。

ウ 電話の内容には、厳しい言葉で恵梨香を奮（き）い立たせようとする希衣の熱い思いが表れている。

エ 電話でのやりとりや口調から、恵梨香が礼儀（ぎ）正しく、生真（ま）面目な性格であることがうかがえる。

オ 電話でのやりとりを通して、希衣と恵梨香の関係が遠慮（りよ）のないものに変化している。

三 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

ジハイドロゲンモノオキサイド (Dihydrogen Monoxide 以下DHMO) という化学物質がある。無味・無臭・無色の物質だが、毎年多くの人がDHMOのために亡くなっている。その液体を一度摂取すると、数日飲まないだけで死にイタる。また、その気体に触れるだけで重度のやけどをすることもあり、酸性雨の主成分としても知られている。これほど危険な物質が世界中で検出されている。今すぐにDHMOを規制すべきだ。

一九九七年、アメリカの中学生はこう訴え、DHMOの使用禁止のシヨメイを集め、五十人中四十三人が賛同したという実験結果を発表した。

では、このDHMOとは一体どのような化学物質なのだろうか。種明かしをすると、DHMOとは一酸化二水素(H_2O)とも表される物質、そう、水のことである。水の事故や水害は世界中で起こっている。私たちは水を飲まないと生きていられない。熱いシヨウキに触ればやけどをする。もちろん、雨の主な成分は水である。

この話は私たちに多くのことを気づかせてくれる。その一つとして、普段いかに私たちが①水という物質の一面のみをとらえがちであるかということがある。

水は様々な性質を持っている。また、物を製造する過程でも、冷却したり物質を溶かしたりと様々な場面で使われている。たとえば、温度変化に対して熱を吸収したり放出したりしづらいつらいつらという性質がある。

ウ そもそも、水がなければ生命の誕生すらありえない。エ それによって、大気中の水分が急激な温度変化をやわらげ、地球の気候が安定している。

私たちが生きていく上で欠かすことのできない水。それは決して生活するうえで身近にあるありふれたものなどではなく、Xの物質なのだということを今一度考えてみてはどうだろうか。

問一 線aとcのカタカナを漢字に直しなさい。

問二 線①「水という物質の一面のみをとらえがちである」とありますが、それは「水」をどのようにとらえることですか。本文中から二十字以内でぬき出しなさい。

問三 線アとエを正しい順に並びかえなさい。

問四 Xに当てはまる言葉として最も適当なものを、次のア～エから選びなさい。

ア 唯一無二 イ 千載一遇

ウ 一期一会 エ 一石二鳥

問五 本文の内容として正しいものを、次のア～エから選びなさい。

ア アメリカの中学生はDHMOが水であることを知らずにその危険性を訴えた。

イ DHMOは危険だと呼びかけられたが、実際に水によって亡くなる人はほとんどいない。

ウ アメリカの中学生の訴えは、実際に水の持つ性質について偽りなく述べたものだった。

エ DHMOが水であると認識するには、水をよく観察しその性質を理解する必要がある。

問六 線「この話は私たちに多くのことを気づかせてくれる」とありますが、本文に書かれていること以外にどのようなことを気づかせてくれますか。それに対してどうすることが必要かということも含めてあなたの考えを述べなさい。

四 次の各問いに答えなさい。

問一 次の1～5の()に入る慣用句を後のア～クからそれぞれ選びなさい。また、選んだ慣用句の□に入る漢字一字を答えなさい。(同じ記号を使用しないこと)

- 1 けんかの仲裁ちゅうさいに入ったが、かえって() 結果となった。
- 2 彼女の堂々とした発表に、思わず()。
- 3 これくらいくらいの練習量で() ようでは、今後が不安だ。
- 4 当時は() ような話だったが、みなみなの努力で実現できた。
- 5 この文章は調和がとれていない。() とはこのことだ。

- ア □を上げる イ □に衣着きぬせぬ ウ 目から□にぬける
エ □を巻く オ 木に□をつぐ カ 火に□を注ぐ
キ □をつかむ ク 赤子の□をひねる

問二 次の——線について、漢字に直したときに1～5と同じ漢字をふくむものを、それぞれア～エから選びなさい。

- 1 母の手料理はカクベツだ。
ア 道路をカクチョウする。
イ 真理をついたカクゲン。
ウ 旧制度をカイカクする。
エ 彼の勝利をカクシンした。

2 日本コユウの文化。

- ア ユウシユウの美をかざる。
イ ユウエンチへ出かける。
ウ 健康ユウリョウ児。
エ ユウコウ関係を築く。

3 試合に勝ってウチヨウテンになる。

- ア 作文で辞書をチヨウホウする。
イ サンチヨウでお昼を食べる。
ウ 無用のチヨウブツ。
エ 地震のゼンチヨウ。

4 シンケイをとぎすます。

- ア シンキイツ努力する。
イ シンシヨウボウダイに話す。
ウ シンカンセンで移動する。
エ セイシンと肉体をきたえる。

5 試合にヤブれる。

- ア 家屋がハソンする。
イ 母のフタンが大きい。
ウ シツパイは成功のもと。
エ シユビはん囲が広い。